

# SDGs(持続可能な開発目標)とは何か

## —— 地方創生 x SDG

持続可能な開発目標(SDGs)とは何か。前身となるMDGsからの背景や、その特筆すべきアプローチ、そして自治体との関わりについてまとめていただいた。



慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 同環境情報学部教授  
**蟹江憲史**

### はじめに

二〇一五年九月の第七〇回国連総会にて、「我々の世界を変革する…持続可能な開発のための二〇三〇アジェンダ」が全加盟国の賛同のもとで採択された。二〇三〇年へ向けたこのアジェンダの中核をなすのが、一七目標、一六九のターゲットを含む包括的な国際目標「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals, SDGs)」である。その基本理念は二つある。「誰一人取り残さない」こと、そして、「アジェンダのタイトル自体にもあるように「我々の世界を変革する」ことである。誰一人として取り残されない、どの自治体も取り残されない、そしてどの国も取り残されないで成長する世界を実現する。そのためには、

の関心が日に日に高まっている。昨今の企業の社会貢献活動の報告書などを見ると、至る所でSDGsの華やかなアイコンを目にする。

SDGsが誕生からまだ二年しか経過しておらず、今はその普及段階にあることを考えれば、それ自体は決して悪いことではない。むしろ、筆者など、二〇一一年に最初にSDGsの提案がコロンビア政府によって提示されたところからSDGsを見続けているものからすれば、二年間でこれほどまでにSDGsが普及されるようになったことは特筆すべきであり、大いに喜ぶべきことである。元国連事務総長のSDGs特使であり、現在在は国連副事務総長を務めるアミーナ・モハメッド氏は、SDGsが合意に至った二〇一五年当時、最初の四〜五年はSDGsの体制を整えるためのスタートアップ期間だと発言していた。まだまだ助走期間である。

しかし、SDGsの本質がガバナンスの変革にあるということを鑑みると、今の活動状況は物足りなさを感じざるを得ない。

### かにえ・のりか

専門は国際関係論、地球システム・ガバナンス。二〇一三年度から二〇一五年度までは環境省環境研究総合推進費戦略研究プロジェクトS-1-1「持続可能な開発目標とガバナンスに関する総合的研究プロジェクト」プロジェクトリーダーを務めた。SDGs研究の第一人者であり、研究と実践の両立をはかっている。国連大学サステイナビリティ高等研究所(UNU-IAS)シニアリサーチフェロー。日本政府SDGs推進本部円卓会議構成員、内閣府自治体SDGs推進のための有識者検討会委員を務めるなど、国際的、国内的にSDGsや環境問題を中心に多方面で活躍中。

今の世界を大きく変革する必要がある。こうした危機感が、SDGsを支えているわけである。すなわち、ローカルから出発し、グローバルなレベルに至るあらゆるレベルでのガバナンスにおける変革こそが、SDGsが狙いとしているところである。目標は世界で共有しながら、その実施方法は極めてボトムアップで、テラーメードで策定していく。こうしたボトムアップの目標達成へ向けた取り組みの成功事例を積み重ね、スケールアップすることで、持続可能な未来を実現する。そんな新たなアプローチが生まれてきたのである。

採択から二年余りが経ち、SDGsへの関心は多くの国で高まってきている。とくに日本国内での急速な関心の高まりを筆者はこここのところつとに実感する。とりわけ地方自治体や企業



SDGsの華やかなアイコン(8頁のカラー版を参照)